J-SIP-B150

M8-5

産学官金連携プロジェクト　～伯州綿利活用研究会の取組み～

○山岸　大輔*[1]，稲賀　すみれ*[2*]，増田　紳哉*[3]，三須　幸一郎*[1]
（＊１鳥取大学 産学・地域連携推進機構，　＊２医学部解剖学講座，
＊３医学部附属病院次世代高度医療推進センター）

１．はじめに

伯州綿（はくしゅうめん）は、江戸時代前期より弓ヶ浜一帯で栽培が始められ、その特徴として繊維が太く弾力性に富み、保温性、通気性に優れていることから、布団の中綿としても評価が高い和綿である。かつてはブランド綿として全国に向けて供給されてきたが、明治末期の外国綿の輸入により他の国産綿と同様に衰退し、無形文化財である弓浜絣の原料として限られた生産が続けられてきた[1]。このような中、鳥取県境港市では平成２０年度より、弓浜絣の再興と地域のブランド化を目的として、耕作放棄地を利用した伯州綿の栽培の復活に向けた取組みが行われている。また同時に栽培された伯州綿の活用促進を目指して、利用製品の開発が進められている。

今回、伯州綿を使用した介護用アイテムの開発を目的として発足した７機関による産学官金連携による研究会と、当該研究会により開発された製品について紹介する。

２．研究会の概要と取組み

医学部解剖学研究室の褥瘡（床ずれ）の実態調査等をもとに在宅要介護者のための防寒と床ずれ予防効果を期待した介護用製品の開発を目指し、平成２７年に境港市と連携して伯州綿プロジェクトが企画され、金融機関を含めた伯州綿利活用研究会として発足した。現在本研究会は、鳥取大学、境港市農業公社、鳥取県産業技術センター、鳥取銀行、（有）柏木商会、境港商工会議所及び米子工業高等専門学校を含めた７機関で構成されている。これまでの本研究会の活動として、概ね月１回の定例会議を行い、伯州綿を利用した製品化に向けての製造及び販売に関する事項など種々の課題について意見交換やそのネットワークを通じた課題解決等を重ねてきた（図１）。製品化に関しては、伯州綿を中綿に使用した保温と解剖学的見地からの背中を保護する形状を備えた衣料が考案され、試着モニター調査やサーモグラフィーを通じて当該保温効果や着心地について評価されている。これらにより得られた成果について、特に特徴的な形態については特許出願を行っている。

図１　研究会打合せ

３．伯州綿製品（寝ごころちゃん）の販売とブランド化

本年９月より本研究会の商品化第１号として、上記検討を経て開発された伯州綿を利用した介護用衣料「寝ごころちゃん」の販売が開始された（図２）。当該製品は、綿の栽培、収穫、綿打ち、縫製、販売全てを境港市内の事業所等で完結しており、境港市の新しいブランド品として期待される。また本製品の販売に際し、境港市による記者会見や報道機関等への情報発信、国内展示会等への出展等、伯州綿のブランド化や当該成果の広報、販売促進に向けた取組を行っている。加えて、伯州綿を利用した新たな商品開発も検討されている。このような迅速な製品化は、けん引役となる研究者の意欲や販売企業の熱意が大きく、またそれを支える連携機関の具体的な協力など様々な要因が関係している。本研究会は、地域資源を用いた商品開発モデルとして優れた産学連携事例になりうると考える。

図２　開発された製品

【参考文献】

1) 境港市５５周年史，境港市，2013.